

## 植物保護学特論演習Ⅱ (2単位)

担当者氏名 岡島秀治・小島弘昭・長島孝行

### ◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

応用昆虫学を専攻する大学院生の実践的研究活動支援プログラムである。研究テーマが院生一人一人異なることから、個人的な指導が中心となる。主な指導内容は、①技術的サポート：実験計画の立案、野外調査法、実験計画および実施法、日本語・英語による文章表現法(論文作成法)、プレゼンテーション法(学会発表)など、②知識的サポート：関連文献の紹介、研究内容の検討、論文作成の実践など。

### ◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

昆虫	害虫管理	資源探索と利用	昆虫利用学
昆虫生態学	昆虫生理学	昆虫形態学	昆虫分類学

### ◆授業の進行等について

	テーマ	内容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	調査法・実験法(1~2週; 期間外も適宜対応)	実験計画に沿って行われている調査や実験の技術的サポートをする	研究目的に沿って調査・実験計画を立てておく
2	プレゼンテーション法ならびに文章表現法(3~9週; 期間外も適宜対応)	学会発表を視野に入れて口頭発表の技術的サポートをする。また、論文の作成に関連して日本語や英語の文章表現をサポートする	学会発表用スライドや各自が書いた原稿を校閲するので、準備しておく。積極的な学会発表および論文執筆を期待する
3	研究内容の検討(10~11週; 期間外も適宜対応)	研究の進み具合とその内容を検討し、完成までのサポートをする	常に研究内容を整理しておき、教員が求めたときに示せるようにしておく
4	論文作成(12~13週; 期間外も適宜対応)	論文作成を個別にサポートをする	論文の草稿を準備しておく
5	総括と研究発表(14週~15週)	総括と研究発表	研究発表の準備

### ◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名/著者/発行所(発行年)  
必要に応じ配布する

### ◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名/著者/発行所(発行年)  
必要が生じたときに紹介する

### ◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト)

レポート及び口述試験により評価する

### ◆オフィスアワー

月曜(14:00~17:00)

### ◆その他受講上の注意事項

特になし